



# 日本が燃えた日

2005年8月14日

愛知世界選手権 リレー

木村佳司

日本サポーターの大声援を受けスタートしてゆき番場洋子(女子リレー日本2走)

**ニッポンサポーターの大声援！そして最高の舞台上で力を尽くした選手たち。そしてそれは世界への階段をまたひとつ登った瞬間だった。**

2005 世界選手権大会リレー  
2005年8月14日(日)  
愛知県作手村鬼久保ふれあい広場

## すごいぞダイスケ！

日本がトップ集団にいる。この瞬間をどれだけ待っていたことか。夢にまで見たシーンが現実となって目の前で展開している。

世界選手権の国別対抗リレー男子、日本は1走に山口大介を起用した。この山口大介が見事期待に応える走りを披露し、8位という好位置で2走の高橋善徳にチェンジオーバーしたのだ。トップのノルウェーとの差は2分21秒。前を走る7位のスロバキアと16秒差だ。



山口大介。歴代世界選手権最高の8位で1走から2走にタッチ。この時点で、ノルウェー・フィンランド・フランス・スウェーデン・スイス・ドイツ・スロバキア・日本の順。イギリス・ロシアよりも前を走る。

2走へのタッチを終えた山口大介はフィニッシュゾーンでそのまま崩れ落ちた。全身の力を使い切ったのだ。このまま呼吸が止まってしまうのではないかと思えるほど苦しそうだっただ。

しかしすぐに起き上がりインタビューに答えてくれた。



「僕が1走を走るというときから、役割は決まっていた。今回はその役割を全力で果たしました。とにかく第一集団から離されないように、ついてゆけるところまでついてゆく。それを実践しました。」



## 練習の成果が出た

日本チームは愛知世界選手権に向けて、何度も練習を積んできた。世界選手権のテレインの周辺に作られたトレーニングテレインを使って何度もトレーニングを行ってきた。

それだけではない。リレーを想定し、集団で走る練習も積んできた。他の選手をうまく利用してスピードアップを図るだけでなく、他の選手に惑わされないようにする。世界ではこうしたレース運びもはや常識になっている。

今回の山口大介の成功は日本チームが行ってきた選手強化が成功しているといえる。

## アドレナリン高橋

「いやー最高に気持ちいいです。応援、涙がでるほど嬉しかったです。もうアドレナリン出まくりって感じで走れました。ありがとうございました。」

日本男子 2 走でレースに臨んだ高橋善徳が 3 走へのタッチ後に場内インタビューに応えた。



レース後に苦しそうな表情から一転。応援への感謝を述べる高橋善徳。

1 走までは他国選手の流れを利用して好発進した日本男子だが、2 走からは自力だけでレースを進めることになる。

1 走で出遅れた他国の選手も快走を見せ、日本の順位もじりじりと下がってゆく。もう世界選手権も 8 日目。各国の選手もさすがに日本のテレインに慣れて来たようだ。

リトアニア・デンマーク・チェコ・エストニア・ロシアが日本を抜き、日本の順位は 13 位までに下がった。それでもイギリス・イタリア・オーストラリアをリードしており、充分世界の中で戦えている。

2 orienteering magazine 2005.10



日本男子 2 走・高橋善徳から 2 走・松澤俊行へチェンジオーバー。この時点で 13 位

## 松澤 痛恨のミス

2 走から 13 位でタッチを受け、大声援を背中に受けた松澤だが、前半で手痛いミスがあったようだ。5 番コントロールで約 2 分のミス。この 2 分間は松澤にとって永遠に近い長さに思えたのかも知れない。

コース後半からは松澤本来のキレが戻ってきたが、イギリス・イタリア・オーストラリア・オーストリアに抜かれて結局 17 位でレースを終えた。

目標の 6 位までは遠く及ばなかったが、昨年の 22 位より順位を 5 つ上げた結果となった。

「前半でミスをした。前を走ってくれた 2 人に申し訳ない。」

レース後のインタビューで松澤は応えた。

しかし、各国ランナーもレース中は必ずミスをしている。しかし、それを補って余りあるスピードを上位国は持っているのだ。

確かにダイスケの快走で世界が見えた気がした。しかし世界と同じ舞台上

あがるにはより一層のスピードアップが必要だということも実感させてくれた。

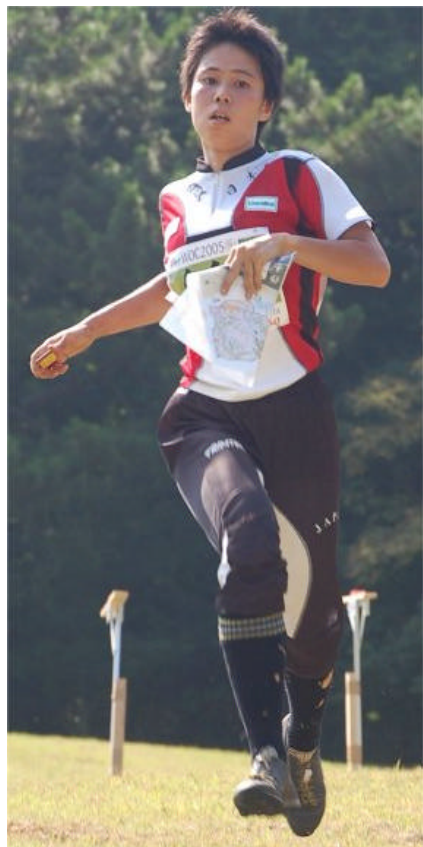


松澤のフィニッシュ。力の限り走る。





日本応援団の大声援。その声は愛知の森の中へ、そして選手へと響き渡る。  
これが愛知世界選手権、地元開催の利なのだ。



日本女子1走:宮内佐季子  
中間コントロールから勢いよく前のランナーを追う 応援団の大声援が背中を押す。

### ニッポン女子 11 位!

瞬間的なヒトケタ順位こそ無かったもののニッポン女子は11位という大戦果を見せてくれた。フィニッシュレーンではデンマークと10位をかけて競り合った。日本は名実ともに中堅国の一員となったのだ。

あと8秒速ければデンマークを凌いで10位になれたが、逆に1分40秒遅ければフランス、リトアニア、ブルガリア、ラトビアに抜かれて15位にまで転落してしまう、まさに中堅国がひしめき合う中で日本は最後までレースを展開した。

### 宮内 好位置発進

日本女子の1走を託されたのは、2004年度の全日本選手権者でもある宮内佐季子。もともとアドベンチャーレース出身の彼女にとって、きつい山岳系トレイルは望むところ。彼女の得意な急傾斜トレイルでなんとか集団にくらいついてレースを展開した。

2走にタッチした時点は14位。しかし10位のルーマニアとの差は1分も無い。まだまだ上位がうかがえる好位置だ。

「番場さんならきっとやってくれるはず。」

2走の番場洋子へタッチしたあとのインタビューで、彼女はチームメイトへの信頼をそう語った。



「応援がとても嬉しかった。」  
走り終わった直後のインタビューで最初に彼女の口からでた言葉はサポーターへの感謝だった。



## 番場 快走!

1走・宮内から14位でタッチを受けた2走・番場洋子が快走を見せた。

前を走るドイツ、ラトビア、デンマーク、ニュージーランドを抜き去り日本の順位を11位へと押し上げたのだ。

3走・元木友子へチェンジオーバーした時点ではイギリスと競っていて、結果的には逆転を許したが十分に射程範囲だ。

「コースは簡単でした。」

多くの外国人選手がミスで沈む中、番場はこういった。

番場がコースを簡単だと感じるのも地元の利というものだ。もともと京都大学で練習を積んできた彼女は、急傾斜とヤブの経験は少なくとも海外の選手より豊富だ。

「この作手高原白鳥のトレインは2001年のインカレ団体戦で優勝した思い出の場所」

地元の利はこうしたメンタルな面でも大きく働いている。

ふと思いつくと、今回の女子リレーメンバーは京都の急斜面で鍛えられた選手ばかりだ。

宮内も番場も京都大学の出身。そして元木友子も京都橘女子大学の出身。関西の厳しいアップとヤブが彼女たちを日本のトップアスリートへと鍛え抜いたのだろうか。



快走した番場洋子。彼女にとっても、日本にとっても作手は忘れられないトレインとなった。

## 粘れ! 元木

3走になると、各国の地力の差が現われてくる。上位を狙うチームでは3走にエースを投入、そうではないチームではエースは1・2走に投入される。

2走まで日本と競っていた国も3走でエースが投入されると、一気に引き離される。日本と10位争いをしていたイギリスもここでエースのヘザーモンローが投入され、一気に加速していった。そんな中どれだけ日本3走の元木友子が粘れるかが注目された。

元木はスピードの落ちてきたフランスを抜き、リトアニア、ラトビア、ブルガリアの猛追をなんとかかわしてフィニッシュした。デンマークに抜かれたものの、最後の最後まで競り合った。

結果的には番場から受けた11位をキープし、世界選手権リレーにおける日本女子最高順位を更新できた。



最後の最後まで全力で走る元木友子。10位のデンマークとの差は僅かだった。



日本女子2走・番場洋子から日本女子3走・元木友子へ11位でチェンジオーバー。前を走るイギリスとの差は僅か!

## 舞うのはこれからだ

今回の愛知世界選手権で日本チームは目覚ましい活躍をみせた。それは地元の利が働いたことも事実だ。しかしそれだけではない。日本チームは確実に強くなっているのだ。それを真に証明する場は来年にデンマークで開催される世界選手権に移された。

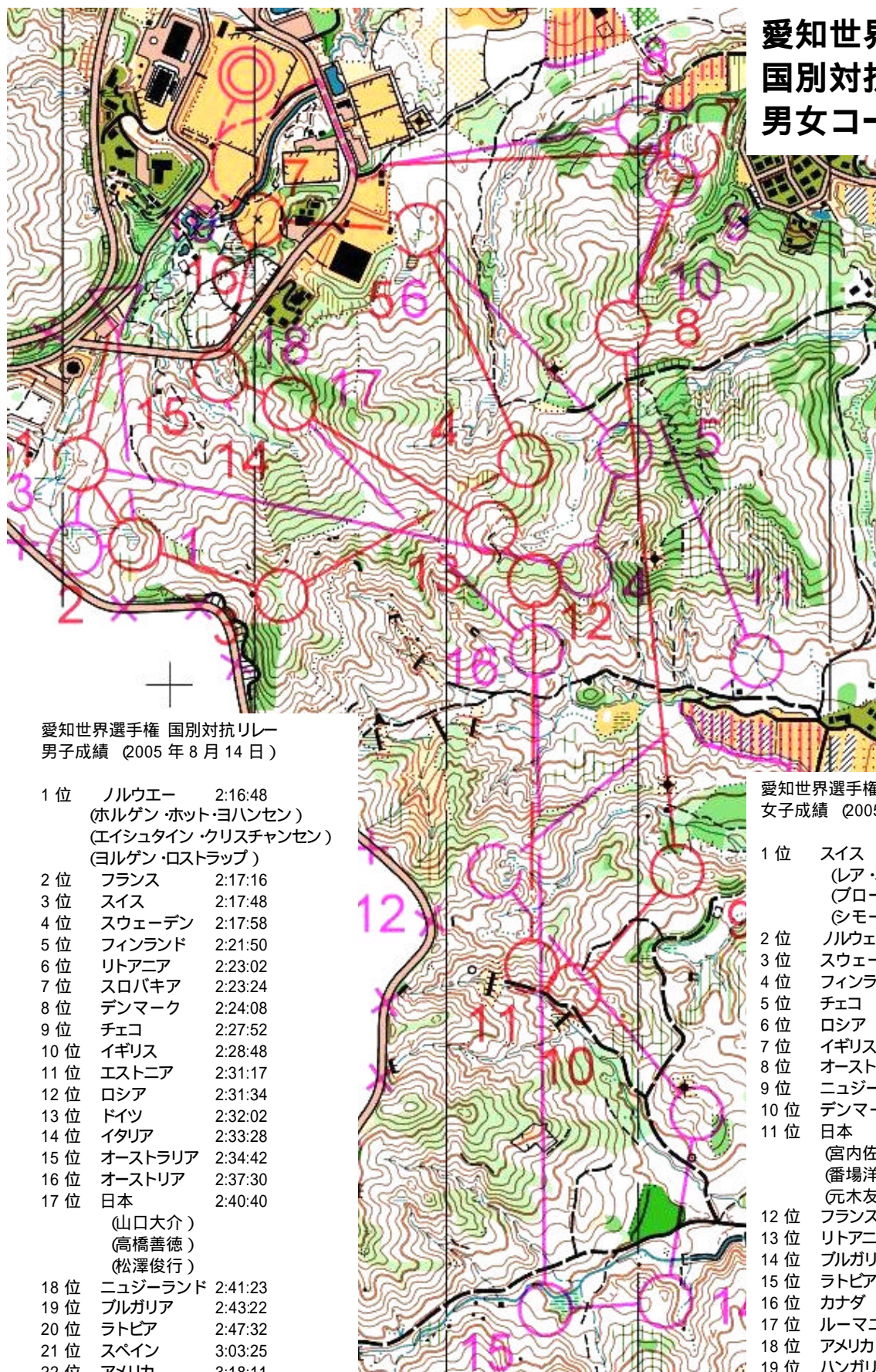
日本はもう下位国ではない。中堅国となったのだ。愛知で日本チームは舞台にやっと立てたような気がする。しかしその舞台で舞うのはこれからだ。



今回の日本チームに力をくれた応援団長モリタツ



# 愛知世界選手権 国別対抗リレー 男女コース図



各走者、前半のループが終わった時点で、一度会場横のコントロールをパンチして中間地点で会場横を走り抜けてゆく。後半も共通のコントロールを通り、フィニッシュする。

会場からは選手の走りを間近で観戦でき、レースの流れもよく判るようになっている。

この日も暑かったため、中間で給水する選手もいた。

愛知世界選手権 国別対抗リレー  
男子成績 (2005年8月14日)

1位	ノルウェー	2:16:48
	(ホルゲン・ホット・ヨハンセン)	
	(エイシュタイン・クリスチャンセン)	
	(ヨルゲン・ロストラップ)	
2位	フランス	2:17:16
3位	スイス	2:17:48
4位	スウェーデン	2:17:58
5位	フィンランド	2:21:50
6位	リトアニア	2:23:02
7位	スロバキア	2:23:24
8位	デンマーク	2:24:08
9位	チェコ	2:27:52
10位	イギリス	2:28:48
11位	エストニア	2:31:17
12位	ロシア	2:31:34
13位	ドイツ	2:32:02
14位	イタリア	2:33:28
15位	オーストラリア	2:34:42
16位	オーストリア	2:37:30
17位	日本	2:40:40
	(山口大介)	
	(高橋善徳)	
	(松澤俊行)	
18位	ニュージーランド	2:41:23
19位	ブルガリア	2:43:22
20位	ラトビア	2:47:32
21位	スペイン	3:03:25
22位	アメリカ	3:18:11
23位	中国	3:21:54
24位	香港	3:24:25
25位	クロアチア	3:29:47
	カナダ	失格

愛知世界選手権 国別対抗リレー  
女子成績 (2005年8月14日)

1位	スイス	2:07:46
	(レア・ミュラー)	
	(ブローニケルヒ・サルミ)	
	(シモーネ・ニグリ)	
2位	ノルウェー	2:09:28
3位	スウェーデン	2:10:35
4位	フィンランド	2:11:42
5位	チェコ	2:12:27
6位	ロシア	2:17:17
7位	イギリス	2:20:21
8位	オーストラリア	2:21:11
9位	ニュージーランド	2:26:07
10位	デンマーク	2:33:16
11位	日本	2:33:22
	(宮内佐季子)	
	(番場洋子)	
	(元木友子)	
12位	フランス	2:33:34
13位	リトアニア	2:33:58
14位	ブルガリア	2:44:40
15位	ラトビア	2:44:57
16位	カナダ	2:46:38
17位	ルーマニア	2:52:05
18位	アメリカ	2:53:48
19位	ハンガリー	2:53:58
20位	香港	3:34:59
21位	中国	3:54:20
	ドイツ	失格
	韓国	失格